或問　WAKUMON　37
No.40,（2021）pp.37-48

『鄂羅斯番語』に見られる“了”“力”“拉”の用法について

萩原　亮

1. はじめに

本稿では，18 世紀から 20 世紀にかけて清朝とロシア帝国の国境で用いられていたピジン「キャフタ貿易言語」と中国語の対訳語彙・フレーズ集である『鄂羅斯番語』（成立年未詳）を対象として，その中国語部分における語彙・語法上の特徴，特に動詞接尾辞・語気助詞として用いられる“了”，“力”，“拉”の用法について検討する。

2. キャフタ貿易言語と『鄂羅斯番語』

2.1. キャフタ貿易言語

清朝とロシア帝国の正式な貿易関係は 1689（康熙 28）年のネルチンスク条約[1]に始まるが，1727（雍正 5）年に締結されたキャフタ条約[2]によって，北京での貿易に加え，国境貿易の場としてキャフタ（Кяхта）とツルハイトゥ（Цурхайтуй）が指定されることとなった。キャフタはロシア南東部，バイカル湖の南に位置する都市であり，ツルハイトゥはロシア中東部，ネルチンスク南東に位置し，アルグン川に面した都市である。実際はこの 2 都市に加え，キャフタのごく近くにある中国領の「マイマイチン（買売城）」も貿易の場となっていたとされる。このキャフタ貿易は 1903 年にシベリア鉄道が開通するまで両国の貿易における主流を担う存在であり，そこで用いられていた言語の一つがキャフタ貿易言語であると考えられている。Shapiro 2010 によると，ロシア商人の側で中国語を解する者は存在しなかったため，キャフタを訪れる予定のある中国商人が河北・張家口の地で予めロシア語を学習していたという。また，柳澤 2017 によれば，中国商人はキャフタ到着後もロシア語の学習を継続しており，ロシア正教会北京伝道団[3]の宣教師ビチューリン[4]はウルガ（現在のウランバートル）におけるその様子を以下

---

[1] 清朝とロシア帝国の国境を画定し，ネルチンスクにおける貿易を許可した，清朝にとって初めての国際条約。

[2] 外モンゴルにおける国境を画定し，停止していた北京における貿易を再開するとともに，国境における貿易を許可した条約。

[3] 中国におけるロシア正教会の伝道を目的としていた宗教組織。1713 年から 1933 年の 220 年間の活動において，18 回にわたって伝道団を組織し来華した。

[4] 修道名イアキンフ，本名ニキータ・ヤコヴレヴィチ・ビチューリン（Никита Яковлевич Бичурин, 1777-1853）。北京伝道団第 9 次団長（在任 1807-1821）を務めたほか，優れた東洋学者でもあった。

のように伝えている。

> （ウルガにある）ほとんどの店の者は，ロシア語を話すことができる。中国商人の言によれば，キャフタの買売城の状況は次のようなものだという。すなわち，店に採用された少年は，最初の 2 年間，絶えずロシア語の会話や，また特に商売に関する単語を習う。2 年経ってものにならなければ，中国に送り返される。しかし，彼らは会話を実践によってではなく書いたものによって学ぶので，発音が不正確で，慣れないと理解するのに非常に苦労する。わが方の商人たちは，中国人の不正確な発音を正すのではなく，彼らに合わせるようにしている。そこから，キャフタのわが商人たちと中国人たちの間で話されるくずれたロシア口語が生まれた。（Бичурин 2010: 106，訳は柳澤 2017 による）

上で言う「くずれたロシア口語」はまさにピジンであるところのキャフタ貿易言語を指すと考えられる。「書いたものによって学ぶ」というのは，『鄂羅斯番語』のような書物を用いて学習していた様子を表すものと思われる。

2.2.『鄂羅斯番語』

『鄂羅斯番語』に関する先行研究は管見の限り Попова•Таката 2017 のみである。それによると，『鄂羅斯番語』は著者，成立年ともに未詳，現存するテキストは抄本であり，現在ロシア科学アカデミー東方文献研究所に所蔵されている（所蔵番号：ИВР РАН, С-59）。不分巻一冊，冊大 15cm×27cm，全 85 葉。本書はキャフタで活動していた商人が用いたキャフタ貿易言語の語彙・フレーズ集であると考えられる。全体は以下の 20 門に分類される

[1]一應數目等項第壹（2a-3a） [2]一應顏色等類第貳（3b-5b） [3]一應紬緞彩羅紗絹等類第參（5b-6b） [4]各様梭布平機類斷肆（6b-8a） [5]各様茶名等類第伍（8a-9a） [6]各様粗細皮毛等類第陸（9a-13b） [7]各様禽獸走獸蟲魚等類第七（14a-16b） [8]天地年月日時等類第八（16b-19a） [9]城郭廟宇道路山河等類第九（19a-21a） [10]帝王文武僧道鬼神人物類第拾（21b-24a） [11]宗族親眷等類第拾壹（24b-25b） [12]身體面目瘡疾第拾二（25b-27b） [13]衣服等類第捨參（28a-29a） [14]回國士俗民情規矩類題拾四（29b-30a） [15]金銀珠寶貨類第拾五（30b-31a） [16]壹概尺寸件色箱等類第拾六（31b-32a） [17]壹應零星貨物等類第拾柒（32b-39b） [18]五穀菜蔬菓品類第拾捌（40a-41a） [19]學話提綱等類第拾九（41b-79b） [20]哦羅嘶國内地名並所出土産處（83a-84b）。

各門において，中国語とキャフタ貿易言語は対訳形式で記され，後者についてはその発音が漢字で表されている。第 2 門「一應顏色等類第貳」から例を挙げれば以下の通りである。a として中国語を，b として漢字音写されたキャフタ貿易言語を記す。

(1a) 灰色

(1b) 登木池外

(2a) 不耐澡

(2b) 具力佃史

Попова•Таката 2017 によれば，上の例において漢字で記されたキャフタ貿易言語“登木池外”，“具力佃史”は дэнмецывай，цзюлитисы とキリル文字転写され，それぞれ「灰色」，「洗濯できない」という意味を表すと考えられる。多くの門では語彙が主体であるが，第 19 門「學話提綱等類第拾九」にはフレーズや常用の表現が集中して現れる。

Попова•Таката 2017 は『鄂羅斯番語』の全体を翻字し，漢字で記されたキャフタ貿易言語の部分についてはキリル文字転写を示すとともに，その音価を推定している。同論では漢字音写を分析した上で，中国側商人の多くが山西省出身であることも踏まえて，中国語における基礎方言を山西方言と推定している。

キャフタ貿易言語学習のための教材である『鄂羅斯番語』は，おおむね 18 世紀から 19 世紀にかけての中国語を反映していると考えらえるが，キャフタ貿易言語の対訳として記された中国語についても語彙・語法の面でいくつかの特徴を挙げることができる。それについては，同論がいくつか言及しているが，本稿では特に中国語部分における動詞接尾辞・語気助詞に焦点を当てて検討することにしたい。

3. キャフタ貿易言語における動詞の形態的特徴

3.1. 不定形の語尾

『鄂羅斯番語』における対訳の中国語の分析に先立って，いくつかの資料から帰納されるキャフタ貿易言語の動詞に見られる形態的特徴を，主に Shapiro 2010 に基づいてまとめるとともに，『鄂羅斯番語』における用法を確認しておきたい。

キャフタ貿易言語における語彙の多くはロシア語由来であるが，同氏はそれを非動詞と動詞に分けて説明している。非動詞とは名詞，形容詞，副詞等を指し，これらは-a という語尾を持つことが多いのに対し，動詞は-и という語尾を持つことが多いという[5]。

キャフタ貿易言語における動詞の多くは，いわゆる不定形に相当する語尾として-и を持ち

[5] 非動詞に-a という語尾が多いことに対して，Shapiro は次の二つの可能性を想定している。第一に，ロシア語における名詞の多くは-a，-o，-e 或いは子音を語尾に持つが，これら複数の語尾を-a という語尾に一般化し，より多くの語に適用させたという可能性であり，第二に，複数の資料から判断して，語末にアクセントが置かれているとは考えられないため，-o，-e を語尾に持っていた語も弱化して-a に合流したという可能性である。

[6]，Shapiro はそれがロシア語の命令形に由来すると説明している。その理由は，第一に，商人同士や雇用主と従業員とのコミュニケーションにおいて，命令形が多用される点であり，第二に，ロシア語の命令形が動詞の語幹に類似している点である。後者について言えば，ロシア語において「話す」を意味する動詞 говорить の命令形は говори であるが，二人称単数形 говоришь，三人称単数形 говорит，一人称複数形 говорим，二人称複数形 говорите のように活用していずれも говори-という語幹をもち，一人称単数形 говорю，三人称複数形 говорят を除いて-и を語幹末に含んでいる[7]。このため，-и という語尾を動詞一般に適用することが容易であったという[8]。

『鄂羅斯番語』について見てみると，本書において単独で現れる中国語の動詞は“買”，“賣”，“拿”，“看”，“殖”の五語であるが，それぞれに対応するキャフタ貿易言語は次の通りである。なお，以下の引用においては，見出しの中国語とそれに対応する漢字音写されたキャフタ貿易言語を示し，その後に Попова•Таката 2017 に基づくキリル文字転写，推定される日本語の意味，出現個所を示す。

(3a) 買
(3b) 古變（губэ「買う」42a-04）
(4a) 賣
(4b) 不兒代／不羅代／不羅達外（бэрдай/ бэлодай/ бэлодавай「売る」42a-04）
(5a) 拿
(5b) 不泥西／必路（биниси/беру「持ってくる」43b-04）
(6a) 看
(6b) 束木潟利（сумэдили「見る」44b-04）
(7a) 殖
(7b) 史道易（сыдаои「～に値する」60a-04）

上の(3b) “古變”губэ は-э という語尾を持っているが，Попова•Таката 2017 はこれがロシア語 купить「買う」の命令形 купи に由来し，また(5b) “必路”беру はロシア語 брать「とる」の一人称単数形に由来するとしている。以上を除けば，ほとんどが-и 或いは-й を語尾に持っており，

---

[6] 主として直前に母音がある場合には-й となる。
[7] говорить は第一変化動詞であるが，читать などの第二変化動詞も同様に一人称単数形と三人称複数形を除き，-е という語幹で終わる。Shapiro によれば，アクセントのない е は弱化するため，第一変化動詞と第二変化動詞の区別なく，-и 或いは-й に合流したと考えられるという。
[8] ただし例外として，можно「～できる」などの助動詞に由来する語は-о を語尾に持つという。

この点について『鄂羅斯番語』も Shapiro の記述と一致すると考えられる。

3.2. 動詞過去形と完了態

キャフタ貿易言語において，ла は動詞過去接尾辞及び完了を表す文末小辞として機能しており，Shapiro によればこれはロシア語と中国語双方からの影響が考えられるという。例えばロシア語で слушать「聴く」の過去形は слушал，слушало，слушала，слушали のように，動詞の不定形語幹に-л（男性），-ло（中性），-ла（女性），-ли（複数）を加えて過去形を作るが，Shapiro はこれらと中国語のアスペクトマーカーである“了”の発音及び機能が類似しているため，ла がキャフタ貿易言語において過去及び完了の機能を持つようになったとしている。

『鄂羅斯番語』においても，動詞接尾辞としての-ла はほぼ同様の用法を持っていると見られる。

(8a) 起來了

(8b) 史大拉（сыдала「立った」51b-04）

(9a) 霉子拉

(9b) 干兒不料拉（гэрбэляола「カビが生えた」46a-05）

Попова•Таката 2017 によれば，(8)は стать「立つ」，(9)は крапать「斑点をつける」の過去形（女性）に由来すると考えられるといい，Shapiro の記述と一致していると考えられる。

4.『鄂羅斯番語』における“了”“力”“拉”

4.1. Попова•Таката の指摘

以下では，上に述べたキャフタ貿易言語の動詞における形態的特徴を踏まえ，『鄂羅斯番語』の対訳中国語における“了”，“力”，“拉”について検討する。

この三語は，いずれも動詞接尾辞あるいは語気助詞として用いられる。まずそれぞれの例を挙げる。

(8a) 走<u>了</u>水<u>了</u>

(8b) 把染力（пожар「火事」63a-02）

(9a) 只會兒賣我那上定會兒我就不要<u>了</u>

(9b) 達必力不兒代牙臥之迷棒昔力牙念那獨（дабили бэрдай я воцзыми басили я не наду「今売らないなら私は買わない。」72a-05）

(10a) 看<u>力</u>

(10b) 束淂木利（сумэдили「見る」46a-03）

(11a) 你弟兄幾個力

(11b) 地白不兩弟子木鬧各力夜史（диби бэлядицзы мэнаогэ ли есы「あなたは兄弟が何人いますか。」68a-05）

(12a) 陰拉

(12b) 都罵拉（думала「霧」17a-04）

(13a) 有利錢早賣拉

(13b) 利什坎夜史單門浪不兒代（лисэкэ есы дэмэнла бэрдай「早くに売って利益があった。」71b-05）

(8)と(9)は“了”，(10)と(11)は“力”，(12)と(13)は“拉”の例であり，(8)では“了”が動詞の直後と文末の双方に現れている。なお，(8)や(12)のように，“了”や“拉”を伴うフレーズがキャフタ貿易言語では名詞相当の語に対応する場合もある。

Попова•Таката 2017 は“了”“力”“拉”の三語をめぐって，次のように述べている。

> В качестве глагольного суффикса завершения действия в словарях используются два иероглифа 了 и 力. В шаньсийском диалекте, так же как и в стандартном китайском языке, иелоглиф 了 встречается как глагольный суффикс завершения действия и как модальная частица, причем в первом случае он читается как la$^{?}$(ла), во втором как liau (ляо). Почему в одних случаях в словарях пиджина используется как глагольный суффикс иероглиф 了, а в других 力 liə$^{?}$(*лu*) --сказать трудно. (…) При этом 力 используется также для выражения императива. (…) Помимо 力 и 了, в словарях используется частица 拉 la (ла), котороя, очевидно, соотвествует глагольному суффикс завершения действия 了 стандарного китайского языка. (pp.48-49)

（動詞の完了接尾辞として，同書では“了”と“力”という 2 つの漢字が用いられている。山西方言においては，標準中国語と同様に，漢字“了”は動詞接尾辞として，また語気助詞として用いられ，前者の場合は la$^{?}$ と読み，後者の場合は liau と読む。なぜ動詞接尾辞として“了”が使われる場合と“力”が使われる場合があるのか，その理由はよくわからない。（…）“力”は命令形の表現にも用いられる。（…）同書においては，“力”と“了”に加えて“拉”という助詞を用いているが，これは明らかに普通話の動詞接尾辞“了”に対応している。）

以上のように，両氏は山西方言における“了”の用法について紹介しながらも，動詞接尾辞と

して“了”と“力”の双方が使われる理由については不明とする。また，“力”はロシア語の命令形に対応する場合があり[9]，“拉”は中国語の普通話における動詞接尾辞“了”に相当すると指摘している。

4.2. キャフタ貿易言語の動詞と“了”“力”“拉”の対応関係

4.2.1. “了”

以下では，『鄂羅斯番語』の対訳中国語部分における“了”，“力”，“拉”の使用状況及びキャフタ貿易言語の動詞句[10]との対応関係を見ていくことにしたい。ここで動詞句との対応に焦点を絞るのは，キャフタ貿易言語はその動詞語尾に特徴があり，中国語との対応関係が比較的明瞭に現れるためである。

『鄂羅斯番語』の対訳中国語において，“了”は全体で 116 例見られるが[11]，そのうちキャフタ貿易言語の動詞句に対応しているものは 92 例あり[12]，その内訳は-и 或いは-й と対応する例が 50 例[13]，-ла と対応する例が 10 例，その他の語尾に対応するものが 32 例である。-и 或いは-й に対応する例と-ла に対応する例を挙げる。

(14a) 去<u>了</u>

(14b) 不何地（бэходи「行く」42a-03）

(15a) 醒來了

(15b) 哦兒史布地（орсыбуди「起きる」51b-04）

(16a) 種（腫）<u>了</u>

(16b) 則布合拉（цзэбухэла「腫れた」26b-04）

(17a) 散<u>了</u>

(17b) 公叉拉（гунцала「まき散らした」34b-02）

---

[9] ここでいう「命令形」とは，上述のように形式面に着目した言い方であり，それが表す意味とは関係がない。例えば，対訳中国語に“看力”という表現があるからといって，それが「見よ」という意味を持つ訳ではない。

[10] ここで「動詞句」というのは，ロシア語の動詞に由来するキャフタ貿易言語のフレーズを指す。

[11] 一つの対訳中国語に対して複数のキャフタ貿易言語が対応している場合は，それぞれを別個の例として数えている。

[12] それ以外の 24 例は，ロシア語の名詞，形容詞等に由来するキャフタ貿易言語のフレーズに対応する例である。以下，“力”と“拉”の場合も同様。

[13] 音訳漢字における舌尖母音/ɿ/の韻母は，-и 或いは-й という語尾に含める。以下，“力”と“拉”の場合も同様。

“了”に対して，(14)と(15)では-и，(16)と(17)では-ла という動詞語尾が対応している。Попова•Таката (2017) によれば，(14)はロシア語 походить「歩き回る」の命令形 походи，(15)はロシア語 разбудить「起こす」の命令形 разбуди にそれぞれ由来し[14]，(16)はロシア語 запухнуть「膨れ上がる」の過去形（女性）запухла，(17)はロシア語 кончать「終える」の過去形（女性）кончала にそれぞれ由来すると考えられるという。

4.2.2. “力”

対訳中国語において，“力”は全体で 218 例見られるが，キャフタ貿易言語の動詞句に対応しているものは 150 例あり，内訳は-и 或いは-й と対応する例が 124 例，-ла と対応する例が 2 例，その他の語尾に対応するものが 24 例である。-и 或いは-й に対応する例と-ла に対応する例を挙げる。

(18a) 看力
(18b) 束得木利（сумэдили「見る」46a-03）
(19a) 吃煙力
(19b) 達垻坎不古利（дабакэ бэгури「煙草を吸う」60a-05）
(20a) 唱力
(20b) 不衣各浪（бэигэла「歌う」45a-04）
(21a) 後嫁力
(21b) 則木未失拉（цзэмэ вэйсэла「嫁に行った」30a-02）

“力”に対して，(18)と(19)では-и，(20)と(21)では-ла という語尾が対応している。Попова•Таката 2017 によれば，(18)はロシア語 смотрить「見る」の命令形 смотри，(19)はロシア語 покурить「喫煙する」の命令形 покури にそれぞれ由来し，(20)はロシア語 поиграть「演奏する」の語幹 поигра，(21)はロシア語 выйти「結婚する」の過去形（女性）вышла にそれぞれ由来すると考えられるという。

また，“力”は動詞句の他に疑問を表す表現において使われる場合が 12 例ある。

(22a) 爲甚力
(22b) 嚇各日/嚇各什（хэгэ зэ/ хэгэ сэ「なぜ」53b-05）
(23a) 你姓甚力

[14] ここで「命令形に由来する」というのは，ロシア語の命令形を来源としてキャフタ貿易言語の不定形が表現されているという意味である。以下同。

(23b) 地各蓋法迷兒（ди гэгугай фамир「姓は何ですか。」67b-02）

(24a) 通共有多少力

(24b) 則笑閑各利夜史地（цзэ сяо сегэ ли есыди「全部でいくつですか。」72a-02）

(22)の場合，хэгэ зэ/ хэгэ сэ はロシア語の как же「なぜ」に対応し，(23)の場合，гэгугай はロシア語の какой「どのような」に対応している。(24)の文は，Попова•Таката 2017 によればロシア語における сколько всего「全部でいくつ」という意味であるとされる。上の例では“力”がこうした疑問詞疑問文の句末に用いられている。

4.2.3.“拉”

対訳中国語において，“拉”は全体で 39 例見られるが，そのうちキャフタ貿易言語の動詞句に対応しているものは 23 例あり，-и 或いは-й と対応する例が 17 例，-ла と対応する例が 4 例，その他の語尾に対応するものが 2 例見られる。-и 或いは-й に対応する例と-ла に対応する例を挙げる。

(25a) 瀛拉

(25b) 未衣各頼（вэйигэлай「勝つ」49b-01）

(26a) 混拉

(26b) 蜜曬（мисай「混ぜる」55b-03）

(27a) 走拉

(27b) 不少拉（бэсаола「行った」42a-03）

(28a) 破拉

(28b) 老賣拉（лаомайла「壊した」46a-05）

“拉”に対して，(25)と(26)では-и，(27)と(28)では-ла という語尾が対応している。Попова•Таката 2017 によれば，(25)はロシア語 выиграть「勝つ」の命令形 выиграй，(26)はロシア語 мешать「攪拌する」の命令形 мешай にそれぞれ由来し，(27)はロシア語 пойти「行く」の過去形（女性）пошла，(28)はロシア語 ломать「壊す」の過去形（女性）ломала にそれぞれ由来するという。

4.2.4. 小結

以上に見てきた『鄂羅斯番語』の“了”“力”“拉”とキャフタ貿易言語の動詞句との対応関係をまとめると次の通りである。

表 1. “了”“力”“拉”とキャフタ貿易言語との対応関係

	動詞句				その他	総計
	-и/-й	-ла	その他語尾	計		
了	50（54%）	10（11%）	32（35%）	92	24	116
力	124（83%）	2（1%）	24（16%）	150	68	218
拉	17（74%）	4（17%）	2（9%）	23	16	39

上表によると，“了”は-и 或いは-й と対応する例が比較的少なく，“力”と“拉”は-и 或いは-й と対応する例が多い点は類似しているが，“力”は-ла と対応する例がごく少なく，また上述したように疑問詞疑問文の中で用いられる場合もあるという点が特徴的である。

5. 山西方言における“咧”と『鄂羅斯番語』の“力”

以上の『鄂羅斯番語』における“了”“力”“拉”とキャフタ貿易言語との対応を基に，ここでは現代山西方言における語気助詞“咧”を取り上げ“力”との関係について考察する。

侯精一 1989 では，平遥方言の語気助詞の一つとして“咧”という語を挙げ，これが四つの用法を持つとしている。第一に，動作が持続している状態を表す用法，第二に，疑問を表す用法，第三に，話者の態度及び感情を表す用法，第四に発話の中でポーズあるいは語気の転換を表す用法である。

(29) 下雨咧。 「雨が降っている。」
(30) 你看哪一块好咧？ 「どれが良いと思いますか？」
(31) 路路上泥的利害咧。 「道が泥だらけじゃないか。」
(32) 兀家三块人咧，就分开了。 「彼ら三人は，すぐに別れた。」

上の例で，(29)は動作の持続，(30)は疑問，(31)は話者の態度及び感情，(32)はポーズをそれぞれ表すとされる。

孙小花 2009 によれば，五台方言においても“咧[liə^{21}]”という語気助詞は動作・行為の進行を表し，また疑問詞疑問文や選択疑問文にも用いられることがあるという。

(33) 我做饭咧。 「私はご飯を作っています。」
(34) 你哪里咧？ 「あなたはどちらの出身ですか？」
(35) 你去咧不去？ 「あなたは行きますか，行きませんか？」

上の例で，(33)は動作・行為の進行，(34)は疑問詞疑問文，(35)は選択疑問文の例である。

また，李建校等 2009 では，永和方言における時制を，“先事时”，“当事时”，“后事时”に分類した上で[15]，“当事时”を表す際に“咧[lie^{0}]”が用いられ，発話時点における出来事を表現するという。さらに，同じく疑問詞疑問文に用いられる場合があると述べている。

(36) 外头下雨咧，咱不要去啦。　「雨が降っているので，行くのはやめましょう。」
(37) 做甚咧？　「何を作っているのですか？」

上の例で，(36)は発話時点における出来事，(37)疑問詞疑問文の例である。

このように，現代山西方言に見られる“咧”は，普通話における“呢”に類似した用法を持つが，動作の完了を表さない点，疑問詞疑問文の句末に用いられる点で，『鄂羅斯番語』に見られる“力”と一脈通じる用法を持っていると言える。また，平遥方言においては“咧”は[liʌʔ^{13}]，“力”は[liʌʔ^{53}]であり，声調は異なるものの同音となる。以上によれば，『鄂羅斯番語』の成立年代や基礎方言は未詳であるが，両者は同一の語を表しているという可能性を想定することができよう。

6. まとめ

本稿では『鄂羅斯番語』に見られる“了”，“力”，“拉”の用法について，キャフタ貿易言語との対応状況を分析するとともに，特に“力”を取り上げて現代山西方言における“咧”との類似性を指摘した。“了”や“拉”とは異なって，“力”は動作の完了を表す語とは言えず，また疑問詞疑問文に添えられる用法を持つ語気助詞であると思われ，本書の編者はこの観点から“力”を“了”及び“拉”と使い分けていたものと考えられる。なお，Попова•Таката 2017 が示唆するように，“拉”は“了”の弱化形式と見て問題ないであろう。

1842 年の南京条約及び 1860 年の天津条約の締結によって，中国の他の都市における貿易が許可されたことに加え，1903 年にシベリア・東清鉄道が開通するとキャフタ貿易は急速に衰退していった。『鄂羅斯番語』の成立はそれ以前であると考えられるため，本書は 19 世紀以前の山西方言を反映する資料となり得る。本稿で論じた点以外の語彙・語法的特徴の分析については今後の課題としたい。

---

[15] 同論は，時制を考える上で①说话的时间，②事件发生的时间，③参照时间（说话人的出发点）という基準を設け，②が③以前に存在するものが“先事时”，②と③が同時であるものが“当事时”，②が③以後に存在するものが“后事时”であると述べている。

参考文献

＜日文＞

柳澤明 2017「17～19 世紀の露清外交と媒介言語」,『北東アジア研究』別冊 3, pp. 147-162.

吉田金一 1974『近代露清関係史』, 東京: 近藤出版社.

＜中文＞

侯精一 1989《晋语研究》，东京：东京外国语大学亚非语言文化研究所.

孙小花 2009《五台方言研究》，北京：九州出版社.

李建校・刘明华・张琦 2009《永和方言研究》，北京：九州出版社.

＜欧文＞

Shapiro, R.2010. Chinese Pidgin Russian. *Journal of Pidgin and Creole Languages* 25(1):5-62; 2012. *Pidgins and Creoles in Asia*. Amsterdam: John Benjamins.

Бичурин, Н. Я. 1906. *Описание Пекина*. Пекин. ; 2010. *Записки о Монголии*. Самара: АГНИ（初版: 1828, Санкт-Петербург）.

Попова, И. Ф. , Таката, Т.2017. *Словари кяхтинского пиджина*. Москва: Наука.

付記

本稿は日本中国語学会第 70 回全国大会における発表「『鄂羅斯番語』に見られる“了”“力”“拉”の用法について」に基づく。なお，本研究は日本学術振興会科学研究費補助金（特別研究員奨励費）「露文資料を用いた近代中国語の研究」（課題番号 21J11299）の助成を受けたものである。